

## 1. エアブローの開発

一般的に、淡水魚の飼育はエアポンプ（モーター）からのエアで魚の糞をスノコの下に集め水草育成やディスプレイに最適なバイオフィルターと底から吹き込んだエアが活性炭フィルターを通し同フィルターが黒くなる（汚れる）とバクテリアが生成し水槽の水を透明にする。当初、幅 60 cmの水槽が 20 個あったから、これらの装置を使用するとランニングコスト（電気代とフィルター代）が高く水槽管理に時間が要したので、独自考案の浄化槽ポンプのエアからエアチューブに送る塩ビ配管を設け、この塩ビ配管から各水槽に分岐したエアチューブを取り付け、浄化槽ポンプが送り出すエアを塩ビホースを通して配給することにした。

この方法は、市販のエアポンプと活性炭マットの役割を果たし、独自考案の浄化槽ポンプから塩ビパイプにエアを送り、各水槽にエアチューブで分岐して輪切りにしたペットボトルをペットボトルの底に砂利を敷き水中に沈め底からエアを送りこみ、その上ろ過フィルターを設け活性炭マットの役割を果たしている。また、大きな水槽にはポンプで水槽の水を送り複数の膜で水をろ過（綺麗に）する役割も本考案のペットボトルが果たしている。しかし、60 cmの水槽には通常ペットボトル×2個+水槽の底に魚の糞を集めているが、魚が多いと水槽の水が濁り少ない魚だと水が透明になる。そこで、水が濁る水槽にはペットボトル×3～4個入れているが、魚の数、水槽の水の容積の相関関係が未だ分からず、清潔感で綺麗好きは時々ペットボトルの汚れたフィルターを綺麗に水洗いすると水槽の濁りで魚が見えなくなる。ペットボトルが汚れないと（綺麗だと）バクテリアが生成していないことを示している。下記写真の右側の濁ったペットボトルにバクテリアが宿る。

夏場は、1週間で水槽の水が濁り、水槽やエア関連装置の掃除に1日で水槽×4個だから、1週間の内5日間掃除の明け暮れだったが、トヨタ自動車の工場排水が濁り防止に成功した記事を見て、ここに使用されている土壌改質活性材を探し求め水槽に使用したところ1週間で発生していた濁りが1ヶ月濁らなくなったので、最近では12個の水槽を1日間で掃除を完了（終了）させるノウハウに辿り着いた。



浄化槽のポンプ



エア配管



ペットボトルのバクテリア生成装置

## 2. 珍種魚が増える

前頁に続いて、カネヒラでは最高峰のプラチナブルーカネヒラ×16匹が加わった。銀色の反射色が鮮明で東の横綱の貫禄がある。餌を与えると反応し、人間が近付くと寄って来て愛らしい。

半年越しで、やっと手に入れたゼニタナゴ×10匹を確保した。わが家では一番高価で近く天然記念物で絶滅危惧種になるらしい。数に限定され、ペット店に出るとプロが買い求めてくる。わが家のゼニタナゴは、ペット店に1時間居たが売却されると困るので直ぐに買い込んだ。ウロコが小さく鮮明で銀光に輝いている。

中国産のトンキントゲタナゴ×10匹は肌がシロヒレタビラに似ていて、身体に鉢巻の模様をしている。  
ヤリタナゴ×11匹は、臆病でペットボトルや水草の蔭に隠れて姿を見せず今春の産卵はしなかった。水槽に慣らして来春には産卵させたいと意気込んでいる。カネヒラに比べ、タナゴは用心深く人間になつかない。



プラチナブルーカネヒラ



ゼニタナゴ



トンキントゲタナゴ

### 3. 稚児の誕生

前述の高価なシロヒレタビラとアカヒレタビラは各々10匹購入し何れも1ヶ月弱で死に、続いてまた各々10匹購入したが1ヶ月で死んでしまった。2ヶ月で2種類のタビラが40匹死にショックは大きい。ところが、親魚は子孫を残す本能が働き、シロヒレタビラの稚児×約50匹（沢山で数きれない）とアカヒレタビラの稚児×23匹誕生している。ちなみに、昨秋真珠貝に卵を産みその卵と貝が翌春（今春）迄生かしたイエローカネヒラは稚児×23匹が誕生している。ノーマルカネヒラの稚児も5匹誕生していたが、前述P:2/4の上段に記載した事故で、稚児達の水が零れ死んでしまった。何れにせよ、魚愛好家達はこれら高価な魚の稚児誕生は困難としているが誕生に成功した。この他に珍種地元産タナゴの稚児×13匹誕生している。多分、稚児の誕生は水槽の水の汚れ防止に使用している水の活性炭材（土壌改質活性培土）の働きと考えている。手前味噌になるが、水槽の濁り防止を実践しているのは僕だけと自負している。新たに、今回取り寄せた高価なゼニタナゴ、プラチナブルーカネヒラ、今春実現しなかったヤリタナゴの稚児誕生に取り掛かっている。



ヤリタナゴ



シロヒレタビラの稚児達



イエローカネヒラの稚児達

### 4. 珍種魚に絞り込む

淡水魚に関わり1年経過した。水槽の濁りに悩まされながら解消し、欲しいカネヒラとタナゴもほぼ揃えることが出来た。前述P:2/4上段の事故からピーク時は水槽の数20個で約1000匹から珍種魚に絞り込み現在は水槽10個で約200匹に減らしてきた。水槽管理は、5日間要していたところ水汚れ防止に成功し1日に短縮（完了）し、綺麗になった水槽を珍しい淡水魚の観察に時間を忘れて充実した日々を過ごしている。

PS：魚の写真は、水槽のガラスの表面反射から上手に撮れていないので、珍種魚をネットで検索して頂くと姿や特徴が理解されるでしょう。